

平城宮跡資料館 新春ミニ展示 「平城京の戌」

2018年の干支は戌戌。平城宮跡資料館では、来年の干支、イヌにちなんだミニ展示をおこないます。

日本列島では、イヌは少なくとも縄文時代から私たち人類とともにいたことがわかっています。いま、日本で確認されている最古のイヌは、神奈川県横須賀市夏島貝塚出土の縄文時代早期(約1万年前)のものです。

もちろん奈良時代の平城京でも、イヌは人々とともに暮らしていました。長屋王邸から出土した木簡からは、邸内で何匹ものイヌが飼われていたことがわかっています。邸内では「犬司」という犬の世話係が設けられていたほか、「御馬屋犬」と称される、馬屋番と思しき犬もいたようです。

戌戌の年は、なにごととも変わり目となる年のようです。私ども奈良文化財研究所も、夏には新しい庁舎の竣工・開庁が予定されています。さあ、変わり目のこの年に、イヌのように元気に跳ねまわりながら、活躍していきましょう。

(企画調整部 加藤 真二)



長屋王邸で飼われた犬
(早川和子さん画)

会 期：1月4日(木)～1月28日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日)

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2017年12月